

第6回米沢市立学校適正規模・適正配置等検討委員会 議事録

日 時 平成30年7月11日(水) 10:00~11:00

場 所 置賜総合文化センター 教育委員室

出席者 1号委員 尾形 健明委員

2号委員 金沢 真委員

3号委員 情野 彰浩委員、安部 直人委員

4号委員 涌井 且一委員、玄番 京子委員、安部 友二委員

米沢市教育委員会

教育長 大河原 真樹、教育管理部長 渡部 洋己、

教育総務課長 我妻 祐一、課長補佐 小田 浩昭、

施設担当主査 玉虫 弘之

教育指導部長 佐藤 哲、学校教育課長 木村 智子、

課長補佐 樋口 進一、

学校財務主査 藤倉 恵美、学事主査 佐藤 多恵子、

嘱託職員 鈴木愛子

(進行) 学校教育課長補佐 樋口 進一

資 料 次第

資料1 米沢市立学校適正規模・適正配置等検討委員会の開催について

資料2 平成30年度 米沢市立学校適正規模・適正配置事業計画

資料3 米沢市立学校適正規模・適正配置事業の進捗状況について

資料4 (仮称) 南西中学校施設整備事業の基本的な考え方

議 事

1 事務局より、委員会成立宣言がされる。

2 委員長 挨拶。

3 会議の公開等について

第1回の際に会議は公開、会議録は名前を伏せて要点のみとしていた。今年度も同様でよいか。

賛成。

4 協議

(1) 事務局からの説明

①検討委員会の開催について

事務局 資料1 米沢市立学校適正規模・適正配置等検討委員会の開催についての説明。年間3回の委員会の開催を予定している。計画が確実に進められているか、様々な新しい課題が出てくることが予想されるので、その都度報告し、ご理解をいただいてより良いものにしていきたい。

委員長 質問、意見は、無いか。 無し。

②適正規模・適正配置事業の進捗について

事務局 資料2 平成30年度米沢市立学校適正規模・適正配置事業計画、資料3 米沢市立学校適正規模・適正配置事業の進捗状況についての説明。今年度の計画の推進にあたって、資料2の1計画の周知、2中学校の適正配置、3小学校の適正配置、4分校等の廃止で進めていきたい。資料3は、進捗状況である。

委員長 何度も地域説明会を開催していることに、あらためて敬意を表したい。米沢の「平成の大改革」ともなる事業である。説明に対して、意見や質問はないか。

委員 パンフレットはとてもわかりやすい。関地区の説明会にも参加したが、全市的に20年間のスパンの計画で、「どうなるのか。」「何時なのか。」と興味を持っているのは、未就学児を持つ保護者である。ある程度の規模になるのは必要で、いいことなのだとやっている時に、統合前の学年の保護者から「新入学児童が一人だから、大きな学校に通学させてほしい。」となったとき、どのように対応していくのか。

事務局 地区によつての考えもあり、動きも様々になることを想定して20年の計画にしている。未就学の保護者にも説明して、意見をお聞きしたい。関地区では、「最短で何年かかるのか。」という質問があった。「早急に。」ということもあれば具体的に対応したいと考えている。今後の進め方については、スピード感をもって対応したい。

委員 具体的なことを聞かれたときどう答えるとよいのか。複式学級の解消等、統合の対象になっている小規模校では、同じようなことがありうるかと思う。学区外通学等、相談に来られた時、個別対応等あるのか。

事務局 統合が決まれば、先に行きたいということもあると思う。今までは、統合までには時間がかかる意見が多かったが、市教委としては、若い世代の保護者から、「早急に。」という意見もあることを地域の方に伝え、合意を得て、スピード感を持って実現できるようにしていきたいと考えている。

委員 各年代によつて、小学生の保護者や、入学前の子どもの保護者でも、意見は違うと思う。入学すれば小規模学校の良さが分かるが、入学前は不安が大きい。嫁いで来られたお母さんは、「一人でも大丈夫なのか。」

と考えてしまう。地区としては、入学をきっかけに、よそに移ってしまうことに拍車がかかるのではということもある。山奥でも、市内でも等しく公平に教育が受けられるようにと思う。移行期が一番難しいと思う。

委員 前回の委員会で、「個別対応はしない。」と言われたと思う。最初の検討委員会から参加しており、検討を重ねて適正規模の学校の方が良いということになった。適正規模の良さを説明すれば、小規模校のところは早く進むと思う。進めた段階で、みんなで一緒にいくのが望ましいので、そこを目指すべきだ。個別対応をしてしまうと、その子だけ別になってしまう。大人になってからの地域の付き合いができなくなってしまふ。地区としても、子どもにとっても、みんな一緒に良いと思う。

事務局 みんな一緒に、なるべく早く統合となるようにしたいと考えている。子どものために進めるのだということを説明していきたい。

委員長 統合するのであれば、一緒に行くことの方が友達をつくるにしてもよい。

委員 南原地区でも、先に第二中に通学している子どもがいるが、部活動の大会等で会っても、友達でないみたいになってしまっている。この計画が出れば、小規模校の地区は、「早くしたい。」となると思う。

事務局 山上地区の説明会の記事が米澤新聞に掲載された。今秋には、地元代表者協議会を立ち上げて、協議を進めていきたいと考えている。山上地区が先駆けとなって、計画が進んでいけばよいと考えている。

委員 山上地区の人と話をしたが、小学校がなくなって子どもがいなくなるのは寂しいので、放課後、学童保育を地区でやっていきたいと話していた。スクールバスが運行になれば、スクールバスを利用して学童保育で降車して預かれるので、そういう運行も考えてもらえると、地区は安心できると思う。

委員長 地区の行事や、伝統のあるお祭り等を残していければよい。私の実家の方でも、小学校はなくなったが、先日帰省したら大運動会をしていた。

事務局 スクールバスの運行も、地区説明会で話題に上るが、登校時は

一カ所に集合し乗車するかたちで、乗車場所はコミセンの利用も考えている。下校時も学童保育として利用できるようであれば、安全面からも地区の方にご協力いただければと思う。

委員 地域説明会の参加者が少ないと感じる。地区の意見が聞いているのか。学校行事に合わせての説明会をして、現役の小・中学生の保護者の意見を集約し、地区に周知、説明するのが効果的かと思う。

東地区と北地区については、今の第一中と第四中の校舎を利用するので、準備を整えればいつでもできると考えられるので、道筋をつけてほしい。

米沢市では、体操部は第二中にしかない。第三中に進学した子どもが、校外部で、第二中での体操部を希望したが、認められなかった。そのため、シニアクラブを立ち上げたのだが、部活動が終わった後に体操をすることになり、時間的に制約があり続けられない。第二中に進学しなければ体操は続けられない。校外部をもっと柔軟に認めれば、移行期間の緩衝剤になるのではないかと思う。

委員 先生が大変になるのではないか。部活動も成績をつけなければならぬのではないのか。

事務局 校外部で、中体連の競技としてあるものについては、教員の引率が必要になる。代理引率をお願いすることがあるが、その数が多いと、競技役員も必要になるので、競技が成り立たなくなる。専門の先生がいればよいが、いない場合は、けがに対する責任がもてない。体操では、引率の先生が行けない場合、親の介添えがあることを条件に許可しているが、親の負担も大きいだろう。個人競技で自分の通学している学校にその部活動がない場合、校外部をお願いはできると思う。

委員 置賜地区は、体操競技が過疎化している。生徒一人に先生が一人付かなくてはならないと、先生の負担は大きいだろうと思う。

委員長 教員の多忙は全国的な問題になっている。働き方改革で、指導者を民間の人に委託する等の流れが出てきている。教員志望者の減少が危惧され、難しい時代になってきている。

事務局 周知について、地区説明会の案内は、地区の全戸配布と学校を通して保護者に配布をしたが、機会があれば説明に伺いたいと考えてい

る。中学校の計画についてもできるだけ具体的なものを示していきたい。

委員長 何度も説明に出向いて、計画を一步一步進めていただきたい。

事務局 資料4（仮称）南西中学校施設整備事業の基本的な考え方についての説明。（仮称）南西中の基本的な考え方は、中学校の施設整備指針をベースに、校長会の意見、指導主事の意見をまとめた。これを基に、具体的に進めていきたいと考えている。

委員長 生徒数の減少にも対応できるようになるのか。

委員 高島町や川西町の事例はないか。

事務局 川西中学校は、統合当初生徒数が多かったためプレハブ校舎で対応したが、その後生徒数が減少し、プレハブ校舎は撤去された。

委員長 他にはないか。

委員 今後統合した場合、学校名はどうなるのか。地区から離れるので、一、二、三や、東、西、南、北ではなく、米沢らしいものが提案の段階からあった方がよいのではないか。

事務局 新しい中学校をつくる大きな事業になるので、学校名についても公募して、3年位のずれはあると思うが、なるべく同じ時期に3校が開校できるようにしていきたい。

委員長 過去に公募制はあるか。

事務局 第七中学校の開校時に公募した。

委員 南原中と第二中の統合に向けて、保護者の懇親会を開いたり、保護者同志のかかわりや繋がりもわかってきている。生徒は、今週末、南原中の二年生が第二中に来校し、9月には一年生が合同で行事をして交流をする予定になっている。統合については順調に交流事業も進んでいる。（仮称）南西中についていろいろ聞かれることも多く、期待が高まっている。

委員長 クラス替えはどうか。

委員 全学年でクラス替えをしていく。

委員 どの中学校から進めるという案はあるのか。

事務局 南原中は暫定的な統合であり、(仮称)南西中の平成 37 年度開校を目標としたが、他の中学校については、通学方法や施設の改修のこともあるので市教委と本庁と協議しながらになる。

委員 部活動のことで、3校になった場合、人気のある部活動など部員数が多くなり保護者から不安の声が出てくるのではないかと。

事務局 現在の 8 校では、野球、サッカーでも人数が少なく部活動が維持できないという問題も出てきている。3校に統合し 500 人規模になれば適正な人数になるとシミュレーションしている。

委員長 人口の減少は危機的状況になっていると思う。我が校も、高校生の人数が減少しているので、5、6 年で悲惨な状況になるのではないかと考えている。

委員 校舎を建設する場合、国からの補助はあるのか。米沢市の負担はどうなっているのか。

事務局 国からの補助金はある程度出る。市の持ち出しはそれ程でもないが、他は借金となる。

委員 スクールバスはどうか。

事務局 国の補助はあるが、どのくらいかは申請しないとわからない。市の持ち出しもある。

委員長 他に何かないか。

(3) その他

なし

5 その他

事務局からは、なし。

次回は10月。

6 閉会